



《指導システムにおける Step 1 ～ 5 の指導指針》(改)

リトミック研究センター研究室 (2015.11.)

	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5
生活・力	お母さんとのいろいろな“あそび”を通じて、教室環境に慣れ親しむ。	身近な生活体験を、親子の触れ合いを通じて音楽遊びに再現し、経験する。	先生やお友達との触れ合いを通して、様々な基本的能力の“めばえ”を促す。	身の回りの出来事を、音やリズムとして感覚的に捉え、豊かな自己表現の基礎作りとする。	表現する喜びを深めることにより、各種能力の向上を促し、自己の健全な確立を目指す。
音楽	音楽の流れている環境に慣れ親しむ。	いろいろな音楽に触れ、速さ、強さ、高さの違いを体験する。	生活に密着した模倣活動を通じて、速さ、強さ、高さを表現する。	ニュアンスを含めたいろいろな角度から音楽を体現して、音楽的基礎能力を育む。	カノン、複リズム、補足リズムなど、より高度な課題に取り組み、音楽的感性の向上を図る。
社会性	お母さん以外の、先生やお友達の存在に気付かせ、一緒に活動することに慣れる。	集団生活におけるルールが存在を認識させ、それらを遵守する大切さを教える。	良好なグループ活動の維持に必要とされる、自制心や協調性の“めばえ”を促す。	活動への積極的な参加と素直な自己表現を促すことで、豊かな個性作りの素地を整える。	外界からの刺激を即座に吸収、消化して、環境の変化に柔軟に対応できる心を育む。
知育	好奇心の発芽を促し、思考力の基礎を養う。	物の名前や数に親しむ。	数と音楽との結びつきを体験する。	教具を使って数の概念を理解させ、読み・書きの基礎力を高める。	読み・書き・打つ・歩くなどの活動を通じて、理解力・記憶力・再現力を培う。
親子	一時もお母さん無しではいられません。指導は、お母さんを通して子どもたちへ伝えるようにします。	親子のコミュニケーションを主としながらも、お母さんへの依存度をじょじょに軽減していきます。	活動におけるお母さんの主導権を薄めつつ、子どもの主張を補佐するサポーターとして、自立への手助けをしていただきます。	友達との活動が中心で、お母さんは、危急時におけるアドバイザー的存在として、控えていただきます。	

【リトミック指導における知育活動導入の意義】

リトミックのレッスンは、他のほとんどの教室がそうであるように、“動き”だけで時間が費やされてきました。しかしそれでは、子どもたちの体力や集中力、持続力が限界を超えてしまい、レッスン効果は思うように現れないのが現実です。

リトミック研究センターでは当初より、効果的なレッスンを行うためには、“動”と“静”のバランスが重要と考え、知育教具(活動)の導入をしています。もちろんそれにより、レッスンにおける子どもたちの体力や思考力が、その都度リセットされることは、言うまでもありません。(2012.07)